

叙勲受章おめでとうございます

政府は11月3日、平成22年秋の叙勲受章者を発表しました。北秋田市からは、消防功勞で元鷹巣町消防団分団長の千葉和男さんが「瑞宝単光章」を受章。統計調査功勞で工業統計調査員の小林勲さんが「瑞宝単光章」を受章されました。また、危険業務従事者叙勲では、消防功勞で元鷹巣阿仁広域市町村組合消防本部消防司令長の戸嶋秀雄さんが「瑞宝単光章」を受章されました。



千葉 和男さん
(中屋敷・74歳)
—消防功勞—

昭和37年に鷹巣町消防団に入団。その後、班長、副分団長を経て、平成2年から分団長を務め、37年間にわたり分団の責任者として、地域ぐるみの防災体制づくりを実践し、地域の消防力の強化充実のため献身的に尽力されました。

昭和47年の沢口地区で発生した住宅火災では「いち早く現場に駆け付け、他地区の分団員とともに放水活動にあたった。風速5メートル以上の風が吹き、近くに消火栓もなかったが、的確な判断で団員をまとめて延焼を食い止めた」と振り返っていました。

また「苦勞したのは、地区から消防団員を募ること。一定の人数が集まらない時には、消防大会の規律訓練に出場できなかった」と無念の思いを語り、今も団員不足を心配していました。

受章について「消防署や前分団長の指導、団員の協力や地域の支えがあつて章をもらうことができた。できるなら、みんなに分けてやりたい気持ち。これからも、地域の安全安心のために頑張りたい」と心から喜びを表しました。

瑞宝単光章



小林 勲さん
(阿仁銀山・73歳)
—統計調査功勞—

昭和54年に工業統計調査員に任命されて以来、地元の商工業に精通し、31回の調査に従事。このほか、商業統計、国勢調査など合わせて92回の調査に携わり、長きにわたり統計調査に尽力されました。調査員となった昭和50年代当時「阿仁合地区には鉱山や木材会社など約40社以上の事業所があり、調査票の回収などにとっても苦勞した。今では10事業所程度になつてしまった」と地域の商工業の盛衰を振り返っていました。

調査では「忙しい時間帯に訪問し、怒られた時もあった。何度も足を運んで心と心が繋がりに理解されると『この人なら安心』と思つてもらえた。誠実さが求められていると感じた」と信頼関係を築く大切さを語りました。また「今年は調査員を辞退しようと思つていた。私がやっていることで若い人が育たないと思つていた」と後継者の心配もしていました。

受章について「調査した企業、個人事業者、役所の担当職員の協力のおかげ。協力してもらった人たちに感謝したい」と周囲への感謝の気持ちを表しました。

瑞宝単光章



戸嶋 秀雄さん
(坊沢・68歳)
—消防功勞—

昭和42年に鷹巣町消防署に消防士として採用。その後、鷹巣阿仁広域消防本部警防課長を経て、平成14年から同消防司令長・次長を務め、36年間にわたり水防訓練や規律訓練、ポンプ車操作などの指導者として貢献されました。

一度は民間会社に就職したが「消防士への憧れがあり、地域の安全、安心のために頑張ろうと思つた。自身の几帳面な性格は消防士に向いていると思つた」と当時を振り返っていました。

また「平成3年の台風19号の時は、強風で道路に倒れた街路樹などの障害物を撤去し、全署員で手分けして被害調査に回つたが建物の倒壊が多く、被害の大きさに驚いた」と甚大な被害のなか、一刻も早い復旧に尽力されました。

受章について「先輩や同僚、消防団の協力があつて、みんなでもらつたものと思つている。また、妻のおかげで無事退職まで務めることができたことを感謝している。今後も防災意識の高揚など地域住民のために、さらに頑張りたい」と喜びを表していました。

瑞宝単光章

食生活改善活動や公衆衛生活動に尽力

厚生労働大臣表彰、県知事表彰を報告

厚生労働大臣表彰を受賞した吉田廣子さん(71歳、川井)、畠山洋子さん(74歳、七日市)ら4人が11月16日、市役所を訪れ、佐藤副市長に受賞を報告しました。

この日、市役所を訪れたのは、厚生労働大臣表彰(栄養改善事業功勞者)を受賞した吉田廣子さん、同大臣表彰(公衆衛生事業功勞者)を受賞した畠山洋子さん、秋田県知事表彰(栄養改善事業功勞者)を受賞した神成君子さん(72歳、小森)、川口充さん(72歳、米内沢)の4人。

吉田さんは、食生活改善推進員として、地域の健康問題を適時にとら



▲厚生労働大臣表彰、県知事表彰を受賞を佐藤副市長に報告した皆さん

え、卓越した統率力と行動力で地域住民への健康づくりと食生活改善の普及・推進に尽力されました。畠山さんは、保健師として健康問題に取り組み、成人病予防対策などにおいて住民協力組織育成し、自らの健康は自ら守る姿勢を定着させ、検診の受診率向上に貢献されました。神成さんは、幼児から高齢者まで多岐にわたり健康づくりを推進しました。合併時には、新たな組織づくり調整に尽力し、北秋田市食生活改善推進協議会の発足に貢献されました。川口さんは、地域に根ざした健康づくりを行政と一体となり展開しました。平成12年からは、森吉町食生活改善推進協議会会長として森吉地区の健康づくりに尽力されました。受賞者を代表して、畠山さんは「周囲の方々の支えで活動を続けることができた。心から感謝しています」などと感謝の言葉を述べました。佐藤副市長は「長年にわたり、それぞれの分野で活動してきたことが認められたもの。これからも、市民が健康で明るく生活できるように、皆さんの力を発揮してほしい」などと受賞者の功績を讃えました。

秋田県農林水産大賞を受賞

農事組合法人坊沢宮農組合

秋田県農林水産大賞を受賞した、農事組合法人坊沢宮農組合(長崎克彦代表理事)が10月27日、市役所を訪れ、津谷市長に受賞を報告しました。

同大賞は、消費者や市場の動向に迅速に対応した戦略作物等の産地拡大や収益性の高い経営、生き生きとした農山漁村づくりなど、農業・農村ビジョン等をリードする優れた取組を表彰・普及することにより、魅力ある農林水産業と農山漁村づくりの促進を図るために行われています。坊沢宮農組合は、平成19年1月に設立され、6集落68戸で構成されています。農業経営は稲作を中心に、大



▲県農林水産大賞の受賞を、津谷市長に報告した長崎代表と石井副代表

豆の作付けとハウス野菜、そして共同防除などによる多角的経営を目指しています。特に、地元鷹巣産の大豆を原料とした、「とうふ作り」にも挑戦し、地元量販店での販売や学校給食への提供も、食育にも取り組んでいきます。また、野菜ではキュウリを作付けしていますが、「星形キュウリ」と「ハート形キュウリ」は、数量は少ないものの高付加価値野菜として、関東方面に出荷しています。この日、市役所を訪れたのは、長崎代表理事と石井文雄・副代表理事。長崎代表理事は「地域の頑張りや評価され、大変喜んでいる。今年は、大変な年だったが、収穫が終了したら総括して、問題点を話し合い、来年度に繋げていきたい」などと受賞を報告しました。津谷市長は「自分たちが作ったものを、生産者や加工者の顔が見えるかたちで販売し、鷹巣西小学校の稲作体験などを通して、食育にも取り組む活動は本当に素晴らしい。これからも、地域の農家のお手本として、頑張してほしい」などと同組合の取り組みと受賞を讃えました。